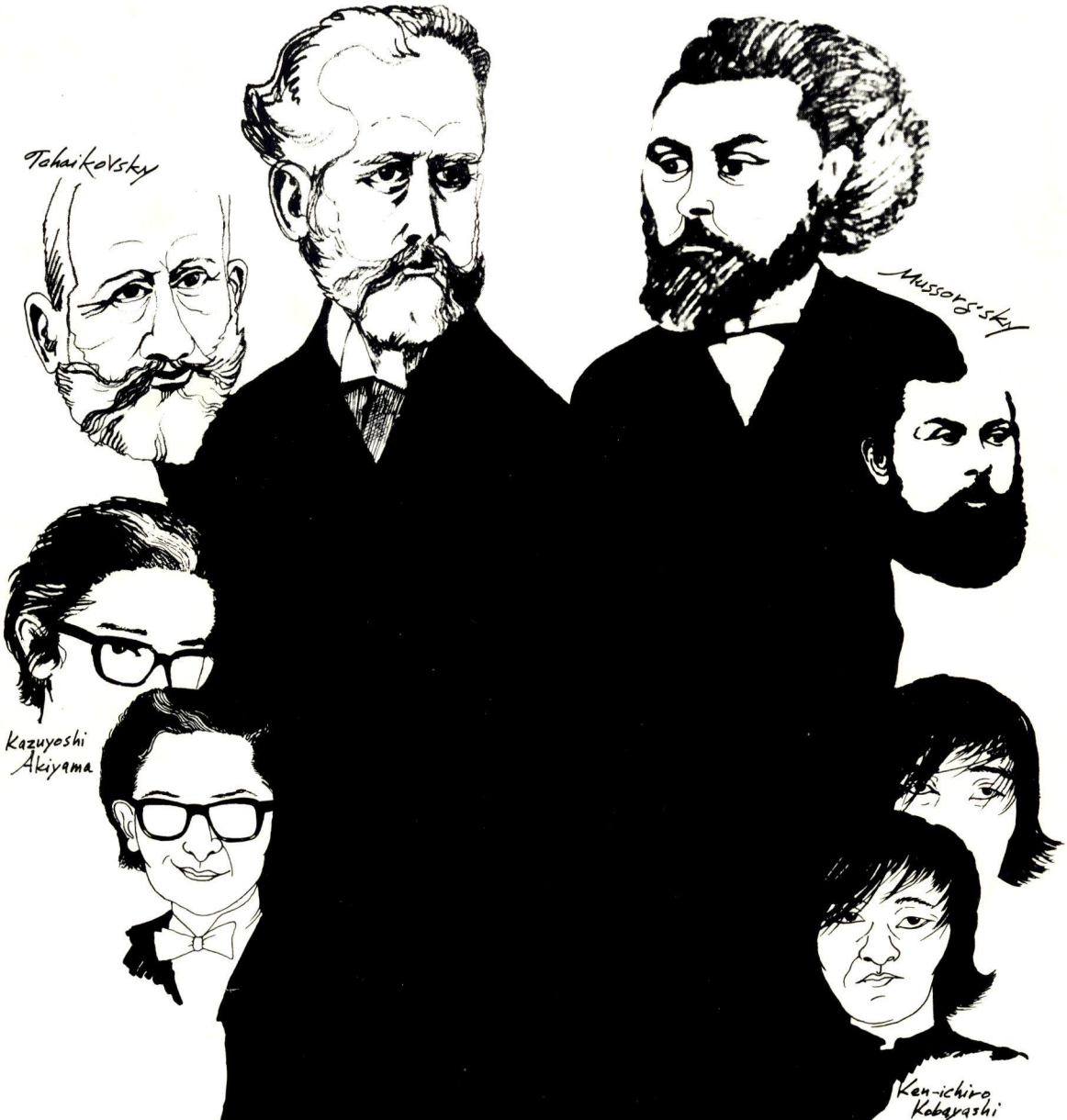
東響・新響合同サマーコンサート



1972年 8 月23日(水) 7：00 P.M.
東京文化会館

東京交響楽団・新交響楽団合同サマーコンサート

The Summer Concert of
The Tokyo Symphony Orchestra and
The New Symphony Orchestra

指　揮　　秋山和慶……③④
　　小林研一郎……①②
ピアノ　　小林　仁

①ムソルグスキー：交響詩「はげ山の一夜」
②チャイコフスキー：スラブ行進曲
③チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調
④ムソルグスキー-ラヴェル：組曲「展覧会の絵」

Conductor　：Kazuyoshi Akiyama ③④
　　：Ken-ichiro Kobayashi ①②
Pianist　：Hitoshi Kobayashi
①Mussorgsky　：A night on the bare mountain, sym. poem
②Tchaikovsky　：slavonic march
③Tchaikovsky　：Piano Concerto No. 1 in B flat minor
④Mussorgsky-Ravel　：Pictures at an exhibition

1972年8月23日（水）午後7時
東京文化会館

Wed. 23rd Aug. 7:00P.M.
TOKYO BUNKA KAIKAN



秋山和慶　　指揮

1963年桐朋学園大指揮科卒。指揮法を斎藤秀雄に師事。64年2月東響を指揮してデビュー。以来、国内の主要オーケストラを客演指揮したのをはじめ、桐朋学園オーケストラのアメリカ演奏旅行や、66年ボリショイ劇場管弦楽団を指揮し好評を博した。68年～69年のシーズンには、トロント交響楽団の副指揮者として活躍、70年カーネギーホールに於るアメリカ交響楽団の定期公演、ロチェスターフィル、トロント響、ヴァンクーバー響への客演、さらに秋には、桐朋学園オーケストラのヨーロッパに於る30数回の公演、71年～72年アメリカ響、ロチェスターフィル、ヴァンクーバー響、ロンドン・ロイヤルフィル、サンフランシスコ響等と、世界有数のオーケストラを指揮しいずれも絶賛を浴びた。その迫力ある新鮮な指揮ぶりには、我が国の若き世代を代表する第一人者の才能がうかがわれる。今秋10月より3年間にわたって、カナダの三大オーケストラの一つ、ヴァンクーバー交響楽団の音楽監督・常任指揮者に就任することが決定しており、今後、国際的により一層の活躍が期待されている。東響音楽監督・常任指揮者。大阪フィル専属指揮者。





小林研一郎　　指揮

東京芸術大学作曲科及び指揮科卒業。

指揮を山田一雄、渡辺暁雄氏に作曲を石桁真礼生氏に師事。

第２回民音指揮者コンクールに入選、奨励賞を受賞。群響定期、オペラ「卒塔婆小町」「小判狂言」ＯＢ交響楽団定期、東京音楽大学定期、新響定期、第九特別演奏会、百万人の音楽、テレビオペラなど多方面に活躍した。

昨年８月、東京交響楽団に副指揮者として入団。今年５月東響を指揮して正式にデビュー。以来演奏会はもちろんのこと、テレビ等にも数多く出演し、益々そのレパートリーを広げつつある。

その華麗と緊張の交錯した指揮で、今後の指揮界の最も期待される若手指揮者である。

現在　東京交響楽団副指揮者
　　日本指揮者協会会員
　　「環」会員・東京音楽大学講師
　　新響指揮者

小林　　仁　　ピアノ

幼少より音楽の才能を表わし、父にピアノと作曲理論の手ほどきを受け、自作を公開の席で演奏した。のちにピアノを井口基成氏等に、作曲を平岡照章氏等に学んだ。1954年、東京芸術大学ピアノ科へ入学。井口秋子氏に師事。56年音楽コンクール第１位、特賞を受賞。在学中よりすでに活発な演奏活動を行ない、主要オーケストラと数多くの協奏曲を協演。一方、現代ピアノ音楽の紹介にもつとめ、多くの国内、外の現代曲の初演や本邦初演を行なった。59年、東京と名古屋でデビューリサイタルを開催。翌年渡欧、ショパン国際コンクール入賞、奨励賞を受賞し、ポーランドの多くの都市で演奏会を行なった。61年から３年間、西ドイツ・バイエルン州政府給費留学生としてミュンヘン国立音楽大学で、ローズル・シュミット教授のもとで研鑽を重ねた。帰国後のリサイタルはいずれも好評を博した。72年、ピエール・フルニエと協演。４月にはソ連へ演奏旅行を行なった。多くの協奏曲のレパートリーを持ち、各交響楽団の定期演奏会や、全国各地での公演、ラジオ、テレビなどで、わが国の第一線ピアニストとして広く活躍している。

プログラムノート

交響詩「はげ山の一夜」　ムソルグスキー

ロシアの大作曲家モデスト・ムソルグスキー（1839～1881）の作品だがこれはムソルグスキーが32才から41才までの10年間いろいろ形を変えたり、習作したりしていながら結局未完成のまま終わったものである。

リストの作品「死の舞踏」にヒントを得て書かれたといわれるムソルグスキーの「聖ヨハネ祭の前夜」は今日ほとんど知られていないが、「はげ山の一夜」はこの自作を拡大、発展させて書き出したものだといわれている。未完に終わったこの曲を今日通用しているような管弦楽用の幻想曲（正しくは交響詩曲）としてまとめたのは、リムスキー＝コルサコフで２年間苦心した結果1886年に初めて出版された。総譜の扉に書かれたコルサコフの文章がこの曲の内容を適確にいいあらわしている。

すなわち「不可思議な声が地下に響く。暗黒の精が現われ、続いてチェルノボグの神が現われる。讃美と祝賀。安息時の酒盛り。躁宴の最中に教会の鐘が鳴り出し暗黒の闇は消散する。そして――夜明け」



スラブ行進曲　チャイコフスキー

スラブ的な旋律が寂しく流れてこの曲は始まる。これはモラヴィア地方の民謡によったものだといわれている。これが次第に全管弦に広がって力強く繰返されると、曲は一転して明るく軽快な曲調に変る。この２つの部分が入り混って発展し高潮したところに、帝政ロシア国歌が荘重に現われ、これと最初の主題とが力強く組み合わされて壮大華麗に結ばれる。これは1876年セルビアとトルコとが戦火を交えた時、セルビアを支援するロシアではその年セルビアの傷病兵を援助する資金募集音楽会をモスクワで開いた。チャイコフスキーは、この為に同じスラブ民族である両国の国民を勇気づける意味で、このスラブ行進曲を作曲したのである。

ピアノ協奏曲　第１番　変ロ短調　作品23
チャイコフスキー

1874年の秋に着手し翌年の２月に完成した。作曲中に彼の尊敬する友人ニコラス・ルービンシテインの意見を求めたところが、この先輩は殆んど全面的にこの曲を非難したので、一時仲たがいする程になったという話である。しかし当時、ドイツの優れたピアニストで指揮者或いは評論家としても活躍していたハンス・フォン・ビューローは、大いにこの曲の真価を認めてこれを世に紹介し、ついにアメリカ演奏旅行の際に、ボストンの音楽会でこれを初演した。これが大成功で、この協奏曲は急に有名になり、至る所で好評を博するようになった。後にルービンシテインもこの曲に対する初めの考えをすてて進んで自ら演奏するようになった。この曲は恩人ビューローに捧げられ、ピアノ協奏曲として最高のものの一つに数えられている。作曲者自身も言ったように、この曲は巨大なテクニックをもったピアニストの解釈力、或いは演奏の支配力を試すのにこの上もない好適の曲とされて、今日に至るまで第一級の大家が演奏会の中心を飾る曲目となっている。

第１楽章　壮大なテーマで曲は開始される。これがしばらく展開したのち、アレグロ・コン・スピリート（速く、元気よく）に変った主題は、ロシアのカメンカという所のお祭りの日に、盲の乞食の歌っていた俗謡から思いついたものだと言われている。曲はピアノの最も華やかな技巧を駆使し、その音楽的効果を極度に発揮したものである。

第２楽章　ゆるやかな美しい歌謡風のメロディーがフルートから静かにピアノに移ってゆく。このあたりチャイコフスキーの感傷的な親しみが一杯にみなぎっている。中間でプレスティッシモ（最も速く）の部分はスケルツォの性格も持っている。この旋律は作曲者の弟モデステとアナトールとが当時のあるフランスの流行歌手から聞きおぼえた古いシャンソンの一節をいつも口笛で吹いていたのを聴いてここに用いたのだという話がある。曲ははじめの旋律にかえり幾分明るさを増してなおも続き、美しい余韻を残して終曲に入る。

第３楽章　華麗で雄大な趣きをもった終曲である。スラブ的な力強い主題を中心としたロンド形式で書かれ、まず輝かしくこれを弾き始める。第２主題はヴァイオリン群で歌謡風になだらかに出てくるので、先の力強い第１主題と見事な対照を作る。曲は次第に華やかに、複雑な演奏技巧の美しさを見せながら発展し、やがて壮大な結びのクライマックスになる。

作曲者チャイコフスキー（1840～1893）の音楽には、ロシア的な憂愁や感傷がみなぎっている。しかし時には熱狂的な、また開放的な華やかさを見ることもある。その手法からみると、当時大いに興ったロシア国民楽派(バラキエフ、ボロディン、ムソルグスキー、キュイ、リムスキー・コルサコフの５人を中心とした運動）の人達のように大胆で独奏的な所は幾らか少なく、穏健で着実な所がその特色である。そこでチャイコフスキーの作風から、これを西欧派、あるいは折衷派などという人もある。ピアノ協奏曲は３曲作ったが、第２番ト長調作品44（1880年）と、第３番変ホ長調作品75（1893年）の２曲は、今日では余り演奏されず、チャイコフスキーのピアノ協奏曲といえば、普通はこの第１番のみを指していう程、この曲は形式、内容ともに傑出したものである。



組曲「展覧会の絵」　　ムソルグスキー～ラヴェル編曲

ロシアのカレボという片田舎に生まれたムソルグスキーは、父親が地主だったので生活は楽だった。ピアノのうまかった母親について彼は幼い時からピアノを習い、７才の時にはリストの小曲など弾けた位、音楽の才能を身につけていた。17才で陸軍士官学校を出た彼は、ある連隊に勤務した時、軍医だったボロディンと知り合い、又、キュイやバラキエフと仲良くなったのもその頃だった。そして軍人をやめてからは、こうした友人達と共に音楽に打ち込み、この「展覧会の絵」の他に交響詩「はげ山の一夜」や歌劇「ボリス・ゴドノフ」などの傑作をかき、後世に名を残した。

親友の建築家で絵も上手だったハルトマンの死を悲しんだ彼は、友人達と相談し遺作の絵や図面の展覧会を開き故人を追悼した。その時並べられたハルトマンの絵と会場の印象をムソルグスキーがピアノで描き出したのがこの組曲「展覧会の絵」だ。始めに短いプロムナードがついており、それが曲と曲のつなぎともなって現われる。これは展覧会場に入り、一つ一つの絵を見ながら次の絵までゆっくり、時には急ぎ足で歩く様子を現わしている。そして、各々特色をもつ10枚の絵の印象を一つ一つ個性のある表現で描きあげたのである。

このピアノ曲をフランスの作曲家ラヴェルは、オーケストラ用にアレンジし、それにいろいろな楽器で色と厚味を加え、更に美しい曲にまとめている。

さて「展覧会の絵」はプロムナードに続いて最初の絵は、せむしの小人を描いた「こびと」である。ぶかっこうな足どりで歩く「こびと」を特徴のあるリズムで表現している。続いて「歩く」間奏があり、第２の絵は中世紀の城をかいた「古い城」である。ここでは城の下をそぞろ歩きしながら歌う詩人を哀調のこもった美しい旋律で表わしている。「歩く」間奏に続いて第３は昔パリにあったチュイレリーという宮殿の美しい庭で、子供達が子守りらと遊んでいる楽しい様子を描きあげた「チュイレリーの庭。遊んだあとの子供のけんか」である。

そして第４番目の絵「ブイドロ。ポーランドの牛車」には、大きな車輪の牛車が田舎道をゆっくり通っていく様子を表わし、この曲を聞いていると、牛車の車輪のきしむ音が聞えてくるような錯覚さえ感じられる。「歩く」間奏の後は５番目の「卵のからをつけたひなの踊り」であり、ここでは、卵のからの中のひよこの鳴声やはねる様を思わせる美しくかわいらしい踊りの音楽になっている。６番目は、「サミュエル・ゴールデンベルクとシュミュイレ（金持ちのユダヤ人と貧しいユダヤ人）」。二人の環境と性質の違ったユダヤ人、金持ちでもったいぶり屋のゴールデンベルクと、貧乏人でおべっかつかいのシュミュイレをおもしろく描いている。

７番目の「リモージュの市場(言い争う女たち)」ではフランスのリモージュ市場で買物をしながら賑やかに話し合っている女達の様子が描かれている。８番目は「カタコンブ」。ハルトマンがカタコンブ（昔キリスト教の殉教者達の遺骸を葬ったほら穴）に入っていった時のことを思い出してかいた絵で、そのほら穴の情景を、うす気味悪い音楽が巧みに表現している。続いて第９の「バーバ・ヤガーの小屋(めんどりの足の上に立つ小屋)」は古いロシアの伝説にでてくる魔女のバーバ・ヤガーの絵から発想した怪しげなお化けの音楽である。最後の10番目の絵は「キエフの大きな門」。これは、ロシアの古都キエフの城門を設計した絵だが、ムソルグスキーは、近くに見える教会から受ける讃美歌風な旋律と、鐘の響きをとり入れ、そのイメージと情景を巧みに描きあげている。

そして最後は、力強く輝かしい演奏のうちに、この組曲「展覧会の絵」の曲は終るのである。（有坂愛彦）

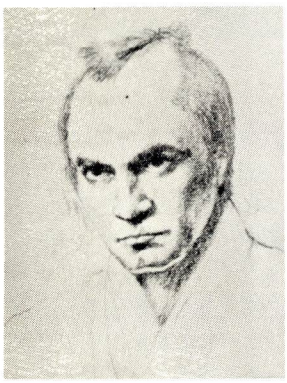
夏の夜話

芥川也寸志

チャイコフスキーがコレラで死んだことは広く知られている。自分で棒を振った初演が1893年10月28日、その約一週間後の11月５日の夜中から、６日のかけての間に急死した、ということになっている。

彼の極度に内向的な性格や、用心深い病的傾向を知っていた人々は、等しく自殺と感じたそうである。

一方、ムソルグスキーの死因は、脳卒中とされている。彼の晩年は、孤独の上に酒乱の生活が続き、廃人同様の生活であったという。しかし、そんな彼にも暖くいたわりの手をさしのべた人がいた。グリンカの妹で、当時有名な歌手であったシェスタコーワの夫人と、帝室歌劇場の歌手、レオノワ夫人である。



ベートーヴェン

歌劇〈ホヴァンシチーナ〉の３、４、５幕は、ペトログラード近郊にあったレオノワ夫人の別荘で完成したというし、彼女は伴奏者として彼を帯同し、演奏旅行にも行っているから、何かにつけてムソルグスキーを引き立てようと計らっていたのだろう。

彼が倒れたのは、このレオノワ夫人の家であった。1881年２月12日のことだ。病院に運ばれ、約１ヶ月間生きていた。命日は３月16日である。

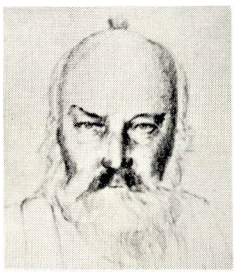
歴史上の大作曲家たちが、何の病気で死んだかは、意外にはっきりとわかっていない。あのベートーヴェンでさえ、ほぼ肝硬変といわれているものの、いや水腫が原因だとか、腸疾患だとかいわれているし、モーツァルトにしたって、尿毒症という説もあり、宮廷楽長をつとめていたサリエリ、もしくはフリーメーソンによる毒殺説もあって、さだかではない。

ほぼ見当のつく、有名どころを列挙すれば次の通りである。（カッコ内は持病、もしくは間接的死因、数字は享年）

バッハ　（眼病）　卒中　（65）
ヘンデル　白内障　（74）
グルック　脳溢血　（73）
シューベルト　（花柳病）　チフス　（31）
ウェーバー　肺、喉頭結核　（39）
ショパン　肺結核　（39）
シューマン　（精神錯乱）　衰弱　（46）
ワグナー　心臓病　（69）
ブラームス　肝臓癌　（63）
ヨハン・シュトラウス一世　猩紅熱　（45）
ヨハン・シュトラウス二世　肺炎　（73）
マーラー　心臓病　（50）
ブルックナー　心臓病　（72）
リスト　急性肺炎　（74）
ドヴォルジャック　腎臓病　（62）
ヴェルディ　脳出血　（87）
プッチーニ　（咽喉癌）　心臓麻痺　（65）
フランク　（交通事故）　肋膜炎　（69）
ドビッシー　癌　（55）
ラヴェル　（交通事故）　脳疾患　（62）
ガーシュウィン　脳腫瘍　（39）
シベリウス　脳出血　（91）
リヒアルト・シュトラウス　心臓病　（85）
グラナドス　水死　（49）
ウェーベルン　事故死　（61）

もちろん、年代の新しい作曲家はみんな死因がはっきり記録されているから、挙げていけばきりがない。

以上の中で交通事故が二人いる。フランクは路上で馬車の梶棒に横腹をひどく打たれ、それが死因につながった。ラヴェルは自動車事故で、はじめはたいしたことはないと思っていたのに、次第に脳の疾患をおこし、自分のサインすら出来なくなり、外科手術を受けたが効果はなかった。



ブラームス

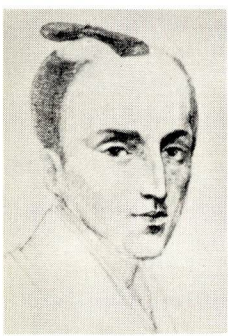
変り種はグラナドスの水死だが、彼は第一次世界大戦の

最中に、アメリカからスペインに帰る途中、イギリス海峡でドイツ潜水艦の攻撃を受け、乗船サセックス号は沈没、夫人とともに水死してしまった。

もう一人の変り種、ウェーベルンの方は第二次世界大戦。ザルツブルグの近くの小村に住む娘のところに避難していたとき、その地を占領していたアメリカ軍憲兵の誤射を受け、即死。

死因のよくわからない作曲家は多いが、その一人にビゼーがいる。命日は1875年の6月3日ということになっているが、誰一人として彼の死の部屋に入った者はいなかったので、いつ息をひきとったのか正確にはわからない。

ただ一人だけ、彼の死を予感していたのは、数多いカルメン歌いの中で、栄ある初代カルメンをつとめたガリ・マリエであった。



ショパン

カルメンが初演されてから丁度3ヶ月目にあたる問題の日、6月3日のパリ・オペラコミック劇場では、カルメンの33回目の公演が行われていた。2幕目までは何事もなく進行したものの、3幕に入り、カルタ占いの場面が始まったところで事件が起った。

ガリ・マリエがひきあてたカードは、はっきりと死を予告するものであった。当然、彼女は自分の死が間近に迫ったものと思いこみ、その場が済むと恐怖のあまり失神して倒れてしまった。



ワーグナー

主役が気絶してしまったのではどうすることもできず、まわりの連中が必死で彼女を介抱し、やっと正気に戻ったところで舞台を続けはしたものの、こんな有様では満足な歌など歌えるはずはなく、散々な結果となり、一応舞台は終えはしたが、彼女の不吉な予感は高まる一方であった。

そしてその翌日、彼女は前の晩にビゼーが死んだことを知らされた。自分が死ぬのではないかという恐怖から、彼女が誰かまわず喋りまわったおかげで、この世にも不思議なカルタ事件はすっかり有名になったが、ビゼーの死に誰も居あわせなかったためか、舞台で死のカードを彼女がひきあてた瞬間に、彼は最後の息をひきとったのではないかと、当時はもっぱらの評判となった。

時にビゼー、37歳であった。

東響名曲コンサート　№36　チャイコフスキー名曲集

① 序曲「1812年」
② ヴァイオリン協奏曲　ニ長調
③ 交響曲第6番　「悲愴」

指　揮　芥川也寸志
ヴァイオリン　西崎たか子

9月27日（水）7:00　東京文化会館

S ¥1,500　A ¥1,200　B ¥1,000　C ¥800（学割 ¥600）

テレフォンサービス　03－369－1393

音楽占い

松下 修也
（東響首席チェロ奏者）

皆さん今晩わ。ようこそおでかけ下さいました。今宵は、この合同演奏会を楽しく、くつろいでごゆっくりご鑑賞下さい。

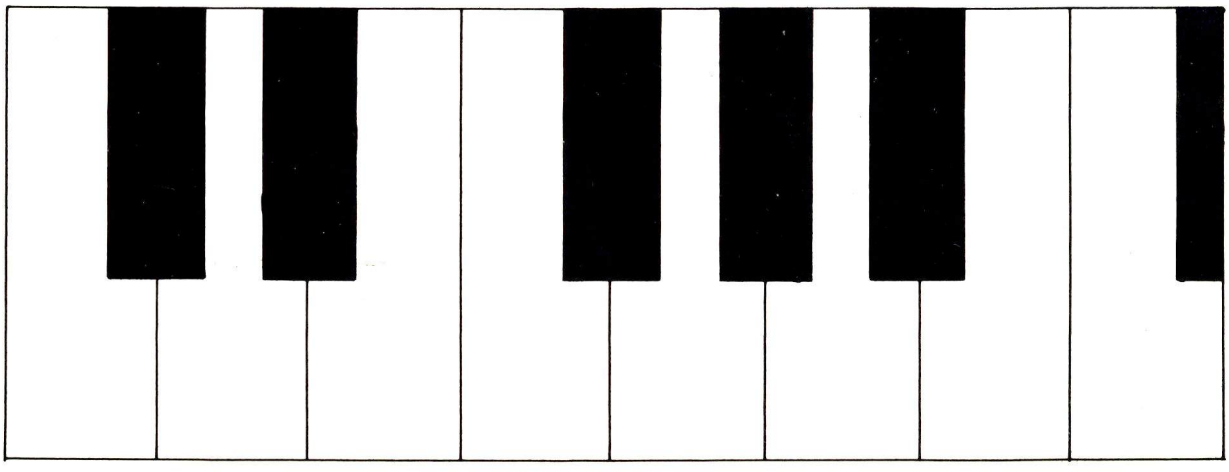
さて、今夜お集まりの皆様の中には、それぞれここにこられた理由が何かあると思います。百人を越えた大オーケストラの大音響を楽しみに足をはこんだ方、指揮者秋山和慶の知性と端整な容姿に魅せられた方、又義理の切符で止むを得ずというお人もおられる事でしょう。そして中には、スコアを片手に演奏のあらを探す世をすねた輩も必ず一人や二人はいるはずです。そこで私は、この大ホールのオーケストラと聴衆の関係を宇宙に置きかえてみました。勿論オーケストラは太陽です。その他水星、金星、地球、火星、まだ他にもいくつかありますね。これらの惑星が聴衆といえましょう。でもそれでは事が一寸大きすぎますので、我々が住む地球を中心に考えてみてみたいと思います。地球の中心の核をオーケストラとし、聴衆を地球上の土とすれば（人間はそもそも土にかえるといわれます）核が震動する（演奏する）と表面の土（聴衆）に影響をおよぼします。地球の誕生でいえば丘になり或いは山になり、窪みができて湖になり、海になります。人間に於ても同様に、多様な人間が形成されるのです。三千年の歴史をもつ中国の易経に震為雷（しんいらい）という卦があります。天地が八つに変化する卦の中で唯一の音の卦です。デモンストレーションで、もう一つの意味はコミニケーションです。音楽上に欠くことのできない大事な意味です。よく響かして、それを伝達するという。（これは私の音楽占いの基本であり、哲学でもあります。

もう一つ、昔、中国の占に梅花心易という大変に面白い方法がありました。宋代の易学者、邵康節がこの書物を作ったことは有名です。種々の占い方法があり、その一部を拾ってみますと、丈尺占、字占、牛哀鳴占、枯枝墜占、風覚占法、聴声音占、色占、雞悲鳴占……等あります。何か、語感に独特の雰囲気がありいかにも中国の情緒をかもしだした占法ではありませんか。枯枝墜占など、とくに味のあるものです。秋の淋しさが肌に伝わってくるようです。この方法は易経によるところが多く、音を研究する私にとっては有益な書物となったことは言うまでもありません。

さてここで、東響、新響のファンの皆様にやさしい音楽占いを、プレゼントいたしましょう。紙面の制約もありますので、ごく簡単な、強いていえば、このプログラムの為の書き下しみたいなものと思って下さい。然し、貴方にとってはよいアドバイスが得られると確信しております。人間は誰でも音楽を聴いている時は邪念がはいりません。特に感動する場所に来た時などは本来の透明な純真な自身の扉が開いている時です。その音楽的陶酔にひたる瞬間、貴方は願いをこめて、このさし絵の鍵盤のドレミファソラシドのキィの一つを貴方の人差し指で素速く決めて下さい。

あなたが決めたキィが例えばドの音であれば解答欄のドの項をお読み下さい。簡略のためこの際黒鍵は関係ありません。そして、その指は、貴方の意識が押さえるのではなく、何かによって指が命令を受けてそのキィを押さえるような感じです。ですから押さえるのは一度だけです。これはとても大事なことで、いたずら半分では、貴方の願い事の解答が得られません。ではごゆっくりコンサートをご鑑賞下さい。もう一つの貴方の幸運をお祈りします。

解答は最後の頁をご覧下さい。



新　交　響　楽　団

新交響楽団、新響は名前こそN響の前身と同じですが純然たるアマチュアのオーケストラで、名簿に見るように、サラリーマン、学生、主婦など、音楽を職業としない120名の団員から構成されています。

週1回土曜日、東京文化会館地下のリハーサル室での練習を基礎として、月々400円の団費と、演奏会の収入による独立採算で運営されています。

昭和31年創立以来の常任指揮者芥川也寸志氏の献身的指導によって、現在日本で望み得る最高レベルのアマチュアオーケストラとされており、42年秋の訪ソ旅行、44年秋の沖縄九州旅行という華やかな活動がある反面、週1回2時間半の練習、実質的には何の拘束もない任意団体であるという絶対的な制約をうけているため、累積赤字をかかえて常に解散の危機に瀕しているといっても過言ではないでしょう。

新響を存続させるものは、一緒にアンサンブルを創るという一点にしかありません。2～3回の練習で演奏会をもつというプロのオーケストラにはできないような、すみずみまで奏きこんだ演奏をモットーとし、毎週の練習自体をも一つの目的とする緊張と充実が団員の共通の目標となっています。

新響のもう一つの目的は、オーケストラを団員の自己満足としてでなく、できるだけ沢山の人に聴いてもらいたいという演奏団体としての活動です。昨年から新たに若手指揮者のホープ小林研一郎氏を指揮者として正式にお迎えし、芥川先生とタクトを分担して頂くことにより、外部からの依頼にも応じられる演奏団体としての体制をととのえつつあります。

最近の主な活動

1971年

8月10日　サマーコンサート　東京文化会館
威風堂々＝エルガー　他行進曲5曲（指揮：芥川）
青少年の管弦楽入門＝ブリテン（指揮：小林研一郎）
シェーラザーデ＝R.コルサコフ（指揮：芥川也寸志）

8月20日　3Mクラブコンサート　郵便貯金ホール
上記ブリテンの代りに交響曲8番＝シューベルト

10月28日　第22回定期演奏会　厚生年金会館ホール
交響管弦楽のための音楽＝芥川也寸志、フルート協奏曲＝モーツァルト（澄川千津独奏）、交響曲第1番「巨人」＝マーラー

11月7日　東日本薬学生合唱連盟演奏会　郵便貯金会館
交響曲第9番＝ベートーベン　指揮：小林研一郎

12月15日，17日　第九特別演奏会　日比谷公会堂
パッサカリアとフーガ　ハ短調＝バッハ－ストコフスキー、交響曲第9番「合唱付」＝ベートーヴェン
独唱：大川隆子、秋葉京子、金谷良三、田島好一

72年2月7日　新響新春特別演奏会　日比谷公会堂
パッサカリアとフーガ、Vn協奏曲＝メンデルスゾーン（独奏：黒沼ゆり子）　交響曲第1番「巨人」マーラー

4月2日　第23回定期演奏会　東京文化会館
交響曲第36番「リンツ」＝モーツァルト、ピアノ協奏曲第4番＝ベートーベン（独奏：遠藤郁子）、幻想交響曲＝ベルリオーズ　以上指揮：小林研一郎

6月6日　合唱団〝鯨〟演奏会に出演　日比谷公会堂
《ブルックナーの夕》　ミサ曲第3番（大ミサ）、テ・デウム　指揮：小林研一郎
（指揮は特記以外全て芥川也寸志）

新響・団員募集中！　――団員募集要領が変わりました――

入団希望者に対しては原則として、月の最終日曜日の午後、オーディションを行い、新響のレベル、パート人員の必要度、本人の環境、入団意志などを考慮して決定します。
オーディションでは、課題曲(下記)、自由曲、初見のアンサンブル曲を演奏していただきます。

《課題曲》

Vn	モーツァルト	協奏曲第5第1楽章
Vla	エックレス	ソナタ第2楽章
Vc	ヴィヴァルディ	ソナタ第5第2楽章
Cb	カプッツイ	協奏曲　第1楽章
Fl	モーツァルト	協奏曲ニ長第1楽章
Ob	ヘンデル	ソナタ第1第1楽章
Cl	ウェーバー	小協奏曲　第1楽章
Fg	モーツァルト	協奏曲　第1楽章
Hr	モーツァルト	協奏曲第3第2楽章
Tp	ハイドン	協奏曲　第2楽章
Tb	R.コルサコフ	協奏曲第1，2楽章
Tub	ワーグナー	マイスタージンガー

（楽譜のない方はコピーをお貸します）

《問合せ先》　①　団員をご存知の方は団員を通して。
②　それ以外の方は人事担当の橋谷幸男まで。
自宅332-4075，会社563-4451内283（キグナス石油燃料油課）

《オーディション日程》
8月27日(日)　午後1時
9月24日(日)　午後1時
10月29日(日)　午後1時

《申込先・オーディション場所》
〒160 新宿区須賀町14大湊ビル　新交響楽団TEL 357－5255
国電信濃町と地下鉄四谷三丁目の丁度中間、どちらからも徒歩5分、2つ目の信号、八百屋裏、CPA学院のビル4F

東響1972年秋季定期演奏会

東京文化会館／毎夕7時開演

193回 9月12日(火)

指揮＝秋山和慶

クラリネット＝村井祐児/ ソプラノ＝伊藤京子

武満徹＝グリーン(ノベンバーステップスII)

ヒンデミット＝クラリネット協奏曲(日本初演)

マーラー＝交響曲第4番「大いなる喜びへの讃歌」

194回 10月19日(木)

指揮＝ツデネーク・コシュラー

ヴァイオリン＝海野義雄

グルック＝「アウリスのイフィゲニア」序曲

モーツァルト＝ヴァイオリン協奏曲第3番ト長調

ドヴォルザーク＝交響曲第7番ニ短調

195回 11月10日(金)

指揮＝ツデネーク・コシュラー／合唱指揮＝国分 誠

ソプラノ＝黒川和子／アルト＝秋葉京子／テノール＝下野昇

バス＝宮原昭吾／合唱＝東京アカデミー合唱団

スメタナ＝交響詩「わが祖国」より

ヤナーチェック＝グラゴール・ミサ(日本初演)

196回 12月11日(月)

指揮＝コンスタンチン・イリエフ

ピアノ＝アラン・スターンフィールド

モーツァルト＝歌劇「魔笛」序曲

リスト＝ピアノ協奏曲第2番イ長調

ベルリオーズ＝幻想交響曲

定期会員受付中!!

テレフォン・サービス **03-369-1393**

定期会員料金 (4回券)		1回券 9月	10月	11月	12月	合計
S	4,600円	1,200円	1,500円	1,800円	1,500円	6,000円
A	4,000円	1,000円	1,200円	1,500円	1,200円	4,900円
B	3,200円	800円	1,000円	1,200円	1,000円	4,000円
C	2,600円	600円	800円	1,000円	800円	3,200円

学生割引(C)2,000円

解答

ド…あなたの意志を貫いて下さい。ためらってはいけません。しかし抱擁精神を忘れないように。

レ…あなたが女性ならあなたの魅力を充分に発揮できます。恋愛としては仲々に上出来ですね。

ミ…派手にやりすぎて、これが最後ね、などということにならないように気を付けること。

ファ…まずこちらの意志を相手によく理解してもらうこと。お互いに投げの応酬に効果あり。

ソ…しばらくほうっておきなさい。相手の出方しだいに。のんびりあせらずに。必ず良い結果が得られます。

ラ…これはいけません。ベートーヴェンの運命のように苦しむか、チャイコフスキーの悲愴の如く悲しい。

シ…じっとしている方があなたにとって得、下手に動くと良くない。また恋は発展しない時。

ド…どうも弱気になる時です。自己嫌悪にならぬようにしっかり地盤を固めよう。

THE TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

名誉指揮者	A・ヤンソンス	代表	中山嘉典
音楽監督	秋山和慶	副代表	常盤俊雄
常任指揮者			
専属指揮者	遠山信二	運営委員長	太田佐武郎
副指揮者	小林研一郎	総務	野村外茂次
〃	堤俊作	副代表補佐	新井汎 金山茂人

Concert Masters	岡田伸夫 徳永二男 中山朋子 鳩山寛 △水野稔雄
Violins	池田めぐみ 石林公子 大西千恵子 大味真理子 岡田伸夫 尾曽越衛子 金山茂人 神谷淳子 亀井俊一 亀山修二 古井戸美保子 今野地栄子 庄司みどり 徳永二男 中塚由美子 中山朋子 二宮慧子 橋本多恵 鳩山寛 曳野琢真 古市幸子 松原紀代 森島松美 山口彰子 山元操 吉里あさ 若宮頼子 △水野稔雄 ◎中塚和良
Violas	足立和夫 岡田伸夫 小出啓子 遠山克彦 永野雄三 花井章 宮崎由起子 △海老原俊一 ◎桂哲郎 ◎田辺弘雄
Cellos	大塚正昭 豊川和美 永井豊 西脇秀治 福島哲朗 堀浩 前島淳 升田俊樹 松下修也 △原田禎夫 △柳田敏也
Double Basses	今村れい子 佐々木等 仙石正志 常盤俊雄 原田博 広瀬康英 △大川慎也
Flutes	江藤大二 喜谷良宗 佐々木真 中山嘉典 星川龍二 丸山正昭
Piccolo	江藤大二
Oboes	佐々木成巳 柴山洋 三浦正信 森下博美 △安原理喜 ◎藤本和夫
E-Horn	三浦正信
Clarinets	宇都実 大森勇 北爪利世 △橋本公佑 林紀人 △村井祐児 △森田利明 ◎佐瀬富雄
E♭-Clarinet	林紀人
Bass-Clarinet	橋本公佑
Bassoons	太田佐武郎 岡崎耕治 坂本正夫 山下芳彦 横井豊 ◎長谷川寿夫
Horns	梅田学 大野総一郎 後藤礼治 鈴木清 新田孝 野村俊一 藤田修作 △守山光三
Trumpets	秋野宏 熊谷仁士 △小出善彦 佐藤博 中木十郎 △南春人 △吉田太美男
Trombones	上原則明 金沢茂 神谷敏 山元勲
Bass-Trombones	西崎習一 野村外茂次
Tuba	田中真輔
Timpani & percussions	新井汎 池田好道 岩沢康裕 倉田雅彦 山崎秀樹 △佐野恭一 ◎芹沢英雄 ◎山崎竜男
Harp	張谷恭子
Librarians	丹下吉太郎 富士川公明
Inspectors	新井汎 金山茂人 野村外茂次
Stage Managers	上原正二 中野重孝
事務局 企画部長	山下喬
経理部長	芹沢英雄
事業主任	上原正二
	天谷洋子 伊藤勝 小沢正治 久津那智子 中村治子

50音順 △留学中 ◎団友

楽しい時…

音楽は一緒に笑ってくれる

淋しい時…

音楽は肩をたたいてくれる



アサヒビールを飲む時

自然と心をゆだねてしまう

何年も前から

つきあっている友のように



ノドで聞く音楽

アサヒビール